

若手の声

～異分野交流の意義～

柴崎宏介

北海道大学生命科学院出村研究室

今までの北海道支部の活動

はじめまして、北海道大学大学院生命科学院博士課程1年の柴崎宏介と申します。生物物理若手の会北海道支部長に就任して早、1年になります。生物物理若手の会北海道支部は、前任者の田村さんが卒業されてから、ほぼ1人で活動しておりました。そこに、新たに加わってくれたBC4の西野明理沙さん、北海道支部の先輩方、先生方の応援をいただいたおかげで、本州の先生をお招きしてセミナーを開いたり、生化学若い研究者の会とはじめて合同セミナーを開いたり、研究室の枠を超えた交流を深める活動を行うことができました。特に、生化学若い研究者の会との合同セミナーは70人の方が参加してくださり、懇親会での討論も活発に行われました。一方で、異分野の研究を理解することは非常に難しく、それが参加する上での壁になっているという点を、改めて実感しました。自分の研究には関係ないから参加しないという方は非常に多いのです。確かに、これにも一理あると思います。

異分野交流と研究の兼ね合い

学生は研究室に入ると、研究をまとめることで、研究室に貢献することが求められるようになります。学部時代の学生生活は、自分の興味にしたがって、授業を受講し、何かの学問を独学するというように、いわば自分の好きなことをやっても評価されました。もちろん、その中でいい成績を取ることが求められますが、選択自体は自分の自由にできます。人間関係も然りです。

しかし、研究室に入れば、その中で人間関係を構築し、研究に必要な技術、知識を習得します。研究室に

入り、自分の研究をまとめあげることが、社会にでてから次の専門をもつための必須のステップです。それが、学生にとって、はじめてもつ自分の専門になります。

その反面、当然のことながら、直接研究とはかかわらない勉強をすること、研究室以外の人間関係を新たに築くことは難しくなります。しかし、専門を学べば学ぶほど、急速に疑問点や課題が増え、「これを勉強しなくては」と思うことが多くなると思います。専門を深めるためには、広範な知識が必要です。これは学部時代にやるべきことではありますが、完全にはできないことがほとんどです。特に、研究者になりたいという思いが強いほど、その傾向が強いのではないかと思います。研究と基礎知識の習得に費やす時間とのバランスを保つことは難しく、みなさんも苦しんだ経験はあるのではないのでしょうか。

だからこそ、自分にはない知識やスキルをもった方と交流する機会は大事だと思います。彼らと意見交換をすれば、自分では数年かけても身につかないような知識や考え方を知ることができます。自分の研究が、相手にとって貴重な提案になることもあり、自分を改めて見つめ直すことができるでしょう。

学生のうちは、現在の自分の研究を深めることが第一ということをお忘れしてはなりません。自分と異なる研究分野の話聞き、勉強するのは、①自分の専門だけではわからない考え方や知識を得る、②自分の研究の突破口を開き、自分の専門の位置づけを知る、③自分の専門をより深く理解できるので、大切なことだと思います。完全には理解できなくても、概要を理解していれば、異分野の方とも交流、意見交換できます。それを通じて、人脈を広げ、自分の抱えている悩みや不安を相対化でき、さまざまな角度からのアドバイスを受けることができるでしょう。

生物物理若手の会北海道支部は、今後も、互いに若手研究者同士が、足りない知識や情報を交換しあい、悩みや不安を共有し、切磋琢磨を促すセミナーを開催いたします。これからもよろしく願いいたします。

The 2nd 夏の学校 in Hokkaido

私たち生物物理若手の会は、毎年夏の学校というセミナー合宿を行っています。来年の夏の学校が北海道で開催されることになりました。日時、場所が決まりましたのでご連絡いたします。

日時: 8月31日(金)～9月3日(月)

場所: 支笏湖ユースホステル

<http://web.mac.com/logbear/syh/Welcome.html>

現在、私たちは経済的にも、国際的にも厳しい時代に生きております。研究者として生きていくためには、自分の研究を通じて何を得られたのか、得られたものの社会での位置づけを、説明していかねばなりません。

生物物理は基礎的な分野で、一般の方からはわかりにくいという印象を受けています。私たちは、生物物理という分野の意義、特に、他の生物関連分野にはない魅力を一般の方に明確に説明しなくてはならないのでしょうか。これは、実行委員を誘うときに「生物物理って何？」と聞かれた度を感じたことでもあります。

そこで、第52回夏の学校のテーマを「生物物理とは何か」に設定しました。今までの生物物理を振り返り、何がまだわかっていないか？ 今後、どのようにその未解決の問題を解決するのかを皆様と共に、考えていきたいと思えます。

今回の会場の支笏湖ユースホステルは、美しい湖と自然に囲まれた場所で、費用も安く、合宿セミナーには最適な場所です。

さらに、今回の夏の学校では、皆様が研究者として生きていくために必要なスキルを身につける機会を作ろうと考えています。論文を書くための表現力、研究を持続するためのメンタル力など、研究者に必要なことは山ほどあり、それを身につけることは容易ではありません。個人で学ぶよりも友と一緒に学ぶほうがいい！ ということで、研究者に必要なスキル、メンタルの作り方を教えていただける先生をお招きする予定です！ 世界を渡り歩けるタフな研究者になりましょう！

52回夏の学校の会議のようすは、Ustream, twitter, Mixi で見ることができます。

Ustream account: bpslive

Twitter account: @BPss2012

Mixi community:

http://mixi.jp/view_community.pl?id=5840380

スタッフの紹介

北海道での夏の学校は2年前にはじめて開催されたばかりで、私も含め、実行委員のほとんどが夏の学校の未経験者ですが、着実に準備を進めております。



2010の夏の学校で異分野交流を楽しむ私。このような学会ではできない、先生も含めた、気軽な異分野交流を今後もたくさん盛り込む予定です！

普段の会議の他にも、夏の学校の予行演習として、セミナーを開き、より実のある夏の学校を探求していく所存です。今のところ、応用物理学会北海道支部の特別講演に生物物理のセミナーを入れていただき、生物物理という分野をより多くの方に知っていただき、夏の学校に興味をもっていただけるようがんばります。

夏の学校の実行委員は現在、下記のメンバーで構成されています。

校長：柴崎宏介（北大・出村研 D1）

副校長：永幡裕（北大・小松崎研 D1）

会計：西野明理沙（北大・河野研 BC4）

講演：大浅翔（北大・河野研 M1）

広告：土井健太郎（北大・石森研 BC4）

会場：武田一樹（北大・川端研 M1）

堤元佐（北大・河野研 D1）

Web：田中良昌（北大・川端研 BC4）

書記 & 予稿：堤元佐（北大・河野研 D1）

アドバイザー：伊東大輔（北大・河野研 PD）

喜多俊介（北大・田中研 D3）

最後になりましたが、夏の学校の準備にあたり、多くの先生方、企業および研究機関にご協力をいただいております。この場を借りて厚く御礼申し上げます。